

「令和元年度第1回甲賀市商工業振興計画審議会」議事録

開催日時：令和元年12月20日（金） 15：00～17：00

開催場所：甲賀市役所別館1階 101会議室

出席者：＜委員＞別紙委員名簿に記載。

（当日欠席：藤岡教授、寺井委員）

＜市＞産業経済部：中島部長、松本次長、松下課長、徳地課長補佐、近藤係長

司 会：松下課長

1. 開会

事務局（松下課長）

- ・皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。それでは定刻となりましたので、令和元年度第1回商工業振興計画審議会を開催させていただきます。
- ・本日、司会進行をさせていただきます、甲賀市産業経済部商工労政課長の松下でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。
- ・市民憲章唱和。
- ・それでは審議会の開会にあたりまして、委員長よりご挨拶をお願い申し上げます。

2. 委員長挨拶（立命館大学 教授 肥塚 浩氏）

肥塚委員長

- ・今日は令和元年度1回目の審議会でございます。
- ・商工業振興計画の進捗状況の確認と、次年度に向けてどういう課題があるかを話し合ってください。またNHKのスカパーレットで活況を呈していることを伺っており、大変素晴らしいことだと思います。
- ・10月の消費税の増税の影響については、私のビジネススクールのゼミ生で居酒屋のチェーン店長をしている者がおりますが、10月は前月比-10%となったと聞いており、11月少し持ち直したが、今後どうなるか分からないと言っておられました。また報道でも百貨店が厳しい状況であると聞きました。今後も増税の影響が懸念されます。
- ・出生人口については90万人を割って86万人台となっています。90万人を割るのは、予定より2年早いということで、心配しているところです。75歳以上の負担を増やすなど人口の減少によって経済に弊害が生じるため、人口増加と経済の発展が商工業の振興にとって重要となります。

このようなことを踏まえながら、商工業振興計画についてご審議いただくよう宜しくお願いします。

事務局（松下課長）

- ・ありがとうございました。
- ・それでは、審議会の議事に入らせていただきます。

本審議会の規則第3条第1項により、委員長が議長となることと規定しておりますので、これからの議事につきましては、肥塚委員長に進行をお願いいたします。

肥塚委員長

- ・それでは、議事に入らせていただきますが、その前に、会議の成立について、事務局から報告いただきます。

事務局（近藤係長）

- ・本日の審議会には、本日現在で委員総数14人中12人の委員にご出席いただいておりますことから、過半数の委員の皆さまにご出席をいただいております。会議開催の要件を満たしていることを、ご報告させていただきます。
- ・また、大変残念なご報告となりますが、甲賀市商工業振興計画の策定にあたり、多大なご尽力をいただきました、公募委員の辻金之様が、今年度、お亡くなりになりました。
- ・まずは、審議会開催にあたり、審議会委員の皆さまにご報告させていただくとともに、謹んで、辻金之委員のご冥福をお祈りさせていただきたいと存じます。

肥塚委員長

- ・それでは、協議事項の「甲賀市商工業振興計画の進捗状況」について、事務局より説明願います。

3. 報告事項

1) 「甲賀市商工業振興計画の進捗状況」について

事務局（近藤係長）

- ・甲賀市商工業振興基本計画の体系、計画期間、基本目標指標（経済活動市内総生産）と進捗評価指標とその現状について別紙資料を元に順に説明。

肥塚委員長

- ・事務局から「甲賀市商工業振興計画の進捗」について、計画の概要と目標指標の現状に

ついて説明をいただきました。内容についてご質問をいただきたいと思います。

各数値に関するご質問・ご意見

委員長

- ・工場立地法届出建築面積が目標に対して大きな数字となっていますが、なぜですか。

事務局（近藤係長）

- ・1社、新たに新規立地した企業があったためです。税収、雇用の面で大きな期待をしております。

芳田委員

- ・観光のスカレットの特需により、一人あたりの信楽焼生産額にも反映されると思いますが、一時的なもののみなのか、継続的にみるのかいかがお考えでしょうか。またスカレット特需による効果はどのように把握されますか。

事務局（松下課長）

- ・信楽伝統産業会館の来館者数は、10月は前年比約2,000人増の約4,000人、12月現在時点でも約3,000人と大きく伸びています。このような経過を把握できるよう記録し、進捗管理をしていくなかで、なぜ増加、減少したのか、後でも検証できるよう取り組んでまいります。

肥塚委員長

- ・2017年～2018年で観光消費額が増加しているのはなぜでしょうか？

事務局（松下課長）

- ・平成29年に信楽焼と忍者が日本遺産認定を受けたことの影響が大きいのではないかと考えています。それを受けて忍者観光の打ち出し等の各施策を行ったこと、信楽焼では当地と他の産地との協力により観光客が増加したことが大きいと考えられます。

肥塚委員長

- ・ありがとうございました。
それでは、事務局より引き続き「甲賀市商工業振興計画の進捗」について説明願います。

事務局（近藤係長）

- ・施策の進捗や重点プロジェクトの進捗について別紙資料を用いて説明。

肥塚委員長

- ・ただいま、事務局から「甲賀市商工業振興計画の進捗」について、施策の進捗や重点プロジェクトの現状について説明をいただきました。内容についてご質問をいただきたいと思えます。

施策の進捗や重点プロジェクトの内容についてのご質問・ご意見

増田委員

- ・地場産業の菓業の振興という点で、くすり学習館を活用することは有意義であると思えます。
- ・雇用がなければ、若者が定着しません。働く場所がないので、積極的な企業誘致を推進してもらえればと考えております。さまざまな情報が行政に集中しているので、能動的に活かしてほしいと思えますがどうでしょうか。

事務局（松下課長）

- ・湖南市と連携し、ジョブフェア等で若者と企業を繋げていくことが重要だと考えています。市内には働く場所がたくさんあるのですが、若者は事務職や研究所などで働きたい人が多く、ニーズとのズレが生じています。また市内中小企業の魅力を十分にPRできていないことにも課題があると考えています。県内に大学が複数あるので大学と連携し、コンソーシアムの組織を通じて、学生に情報が伝わるスキームを作っていければと考えています。また、国の移住支援制度等の活用等、引き続き若年者雇用の取り組みをしていきます。

事務局（中島部長）

- ・働くところはたくさんありますが、若者が働きたい場所がないというのが、正しい解釈であると思えます。
- ・大卒の方は本社採用となることが多いため、このギャップを解消するためには、高卒の方の就労が重要となります。高校教員だけでなく市としても、学生に対して具体的な就労ビジョン（大学に行くことだけが正解ではなく、地場企業に勤めて生活する等）、色んなライフプランを提案し、選んでもらえるよう力を入れてやっていく必要があると思えます。

松村委員

- ・若い人が働きたい職場という前に、現在市内で働いておられる工場長や総務部長という立場の方でも、甲賀市外に住む人が多い印象を受けます。ホワイトカラーが住みたくな

るような職場、街づくりが大事なのではないのかと考えます。

西出委員

- ・親も含めて就職先にネームバリューや安定性を求めることも市内就労が少ない理由だと思います。現在、大手に勤めている方でも「やりがい」を軸に転職先を探している方もおられるので、そういう視点をテーマとしたジョブフェアを開催するといいいのではないかと思います。

増田委員

- ・就職氷河期世代の方を活用するのはどうでしょうか。宝塚市では就職氷河期世代の方を対象とした正規職員の採用募集をされたそうですが、その倍率が数百倍となったそうです。就職氷河期世代の中でも優秀な方や意欲のある方を採用していき、人材として活用していくべきではないでしょうか。

事務局（松下課長）

- ・来年度以降、ジョブフェアをするときの視点や対象者など、今回いただいた意見を参考にさせていただき、工夫して取り組んでまいります。

大北委員

- ・立命館大学で薬学部が設立され約 10 年経ちますが、今年初めて地場製薬企業で 3 名の内定者が出ました。立命館大学のシンポジウムで自社について PR し、毎年くすり学習館でツアーを行うなど、継続して取り組んだことで成果が出ました。内定した学生の方は過去のツアーに参加した学生だったので、継続的に取り組んでいきたいです。その一方で、大学の先生達が甲賀市に製薬会社がたくさんあることを知らないのので、認知してもらえよう周知していただきたいです。
- ・以前あった甲南高校の薬業科がなくなってしまいました。即戦力の人材を輩出する場所であったのに非常に残念です。薬業科のある高校はおそらく滋賀県と富山県だけでしたので、復活してもらえたらと思います。

事務局（松下課長）

- ・立命館大学とは平成 29 年に包括協定を結んでおり、現在、立命館薬学部研究会の学生とくすり学習館の館長とで来年度のくすり学習館の運営のアイデアやイベントについて検討を進めています。一緒に議論等をする事で、甲賀市を知っていただき市内企業への就労に繋がればと考えています。
- ・何もない中で企業誘致を図るのは難しいので、地場産業であるくすりや信楽焼への支援や税制優遇等による研究機関等の誘致を進めていきたいと考えています。

大原委員

- ・信楽焼の職人になりたい人がいません。おそらく給料が安い、汚いのが原因であると考えます。給料を上げる方法があげられますが、事務職との賃金がアンバランスになるので難しいです。現場一つとっても労働者がいなくて困っています。

事務局（松下課長）

- ・信楽高校ではアート留学の取り組みで、全国的に学生を募集しており 5 人の定員を設けています。過去何年間は募集が少なかったため予算額を下げていたのですが、スカーレット効果で問合せが増えているため、予算額の増額を検討しています。信楽に興味を持っていただいた方たちが、信楽の窯業関係先に勤めてもらえるよう繋げていきたいと考えております。

大原委員

- ・どうしても製造過程の中で筒の製造だけなどを作業的にやる必要があります。そういった中で労働者に夢を与えるのが難しく、最後はお金で就労するモチベーションを持っていただくしかないだろうと考えます。

山中委員

- ・甲賀ビジネスサポートセンター（以下、ビジサポという。）には期待をしていますが、自分の子どもさえ市内企業に魅力を感じず、市外で働いており後継者がいない企業が多いです。また同じ業種でも、大手には魅力を感じ、土日は休みたいという風潮があり、募集してもなかなか人が集まりません。家族で継承するのが難しいのであれば別の人に頼まなければならないため、会社間ではなく個人間での M&A に会員の考えがシフトしています。
- ・ビジサポを実のある組織に育てあげてほしいので、ビジサポを務める職員の知識向上や、気軽になんでも相談してもらえるような環境整備を甲賀市にはお願いしたいです。

事務局（中島部長）

- ・ビジサポを作るだけでは意味がないので、職員の質やサービスを向上させていくことを商工会の事務局とは話しています。事業承継の話については、ビジサポの職員が直接出向き、生の声を聞きファイリングしていくことで、次に繋げる地道な取り組みが重要と考えています。
- ・観光分野での成功事例、女性の起業方法、自由な時間でできる商売のやり方等についても提案していけたらと思います。

芳田委員

- ・ビジサポで事業承継の活動を積極的にすれば、商工会の会員数は減るのではないのでしょうか。

事務局（中島部長）

- ・市内で引き継げば商工会の会員数は減少しますが、市外の人引き継げば現状維持、起業者が入れば純増となります。ビジサポはまず会員を対象として始めて、会員以外の方にも利用してもらい門戸を広げていくことで新会員の獲得を狙います。

事務局（松下課長）

- ・商工会は会員対象のものではなくて、市内の小規模事業者の支援が目的となっております。会員と非会員とマッチングさせていくことで会員増加をさせていければと考えており、ビジサポを通じて会員、非会員、他機関と繋げていくことで、サービスが充実されると考えています。

芳田委員

- ・ビジサポがここまで充実していると商工会に入らなくても情報が貰えるため、会員になるメリットはあるのでしょうか。入会する必要がないように思いますが。

山中委員

- ・商工会のスタンスとしては、会員に限定してサービスを提供することはできません。そのため、よりよい商工会の魅力を訴求し、ビジサポ等のサービスを受けて頂くなかで、入会してくれるだろうと考えています。そのような組織づくりを心がけていくしかないと考えています。

事務局（松下課長）

- ・小規模事業者の方は、消防団やまちづくり活動等のまちづくりの力を持たれていると認識をしているので、そのバランス感をしっかり認識し支援をし、ビジサポで総合的なサポートができればと考えています。

大北委員

- ・事業規模関係なく事業承継について悩んでいる事業者は多いと思います。先日、事業承継税制を税理士から聞いて初めて知りました。周知不足であると思います。
- ・工業会と商工会が一緒になってやる、または連携をとれば、規模のメリットもあるかと思いますがどうでしょうか。

事務局（中島部長）

- ・現時点でも工業会と商工会は連携しておりますが、今後はもっと連携を密にしていければと思います。

肥塚委員長

- ・商工会と市との連携をどうしていくか中期的に考えていく必要があります。大津市では2商工会、商工会議所、市が合同で課題を共有する連絡会議があるので、甲賀市でも大津市のように連携を図ることで、共通課題についての解決策を導けるのではないかと思いますので、徐々に連携を図っていただいてもいいのではないかと思います。

4. その他

事務局（近藤係長）

- ・今後のスケジュールについてご説明します。
- ・具体的な見直しのスケジュールにつきましては、上位計画である甲賀市総合計画の策定スケジュールを踏まえ、調整を進めさせていただいているところです。

事務局（松下課長）

- ・本日、委員の皆さまにおかれましては、熱心なご審議をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。また、今後も引き続き、甲賀市の産業振興について、それぞれのお立場より更なるご尽力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

5. 閉会

事務局（中島部長）

- ・委員の皆さまにおかれましては、活発なご審議を賜り、誠にありがとうございました。次年度は、計画の見直しを進めることとなりますが、引き続き、皆さまにおかれましては、それぞれのお立場でご支援ご協力を賜われれば幸いにございます。ありがとうございました。

事務局（松下課長）

- ・それでは以上で甲賀市商工業振興計画審議会を終了します。ありがとうございました。